

岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年3月末現在

今月の重点活動

新たなアスパラガス栽培者に期待！！

3月22日に、羽島市中央支店直売所出荷者60名を対象にアスパラガス研修会を開催した。

羽島市で進めている長期どりのハウス栽培について説明し、参加者から収益性の質問などがあり好感触を得た研修会となった。今後の問い合わせに期待したい。

平成23年度は、JAぎふ帰農塾で「アスパラ塾」の開催も予定しており、JAぎふ管内での産地化が着実に進んでいる。



直売所出荷者対象の研修会

主要農作物の生産振興

■ふるさとのじまん農産物づくり（アスパラガス）

春芽の出荷順調！（岐阜市、羽島市）

JAぎふ管内のアスパラガスは、春芽の出荷が順調に進んでいる。岐阜地域管内のアスパラガスは、市場出荷や直売所販売に関わらず厳しい基準を設け、出荷規格を徹底して高品質生産に努め、消費者、市場からも高い評価を受けている。

今年度産は、新しい生産者の出荷も始まり、出荷量増加が見込まれている。生育も順調で、色・形ともに良好で、穂先も締まり、高品質に仕上がっている。

春芽の出荷は5月中旬まで続き、その後、葉が吸収した栄養で育つ夏芽へと切り替わる。

農業普及課では、ハウス栽培による春どりから夏秋どり栽培技術を重点的に普及推進しており、長期間出荷を目指している。

今後は生産者組織とともに、さらに長期継続出荷ができる新作型を検討し、産地拡大を支援していく。



統一目揃え会（羽島市）



直売所出荷者研修会（岐阜市）

■麦 穂肥の適期施用を指導

小麦の穂肥時期が近付いた3月初旬にJAと協力して圃場調査を行い、穂肥の指導を行った。生産者とともに圃場で生育状況を確認、穂肥の時期、量等、適期に散布するよう指導を行った。現在のところ概ね穂肥は施用された。

■いちご 新規就農者の定着支援

3月3日に新人研修会を開催し、パッキングセンターの運営について検討し、今後の栽培管理のポイントなどを指導した。

また、3月10日に農業技術センター、農業技術課、全農、JA等と新人農家のハウスを巡回し、施設や生育状況を確認した。

■目揃え会で過熟対策徹底

2月25日～3月11日にかけて、各部会で目揃え会が開催され、着色基準の徹底や農業普及課から過熟果対策を周知した。

■えだまめ 産地活性化に向けて！

JAぎふえだまめ部会では、販売額10億円を目標とした産地活性化の検討材料とするため、2月からの各地区の研修会にて、経営意向調査を実施している。

2月播種のハウス栽培の生育は低温の影響でやや遅れ気味である。トンネル栽培の播種は2月下旬から始まっている。茶豆風味の「湯あがり娘」は3月20日から播種が始まっている。

■大根 GAP・2年目の取り組みを決定

JAぎふえだまめ部会・岐阜市園芸振興会だいこん部会、ほうれんそう部会では、3月8日にGAP運営委員会を開催し、2年目の取り組みとなる次年度の活動計画について検討した。平成23年度は、作業場へのPOPの掲示、現地調査の拡大等に取り組んでいくこととなった。



作業場調査の状況

GAP（大根）の現地調査実施

3月11日にJA、普及等が調査員（市も含む＝外部監査委員）（役員＝内部監査委員も調査）となって生産者役員の作業場調査を行った。前回迄と比較して農薬保管など多くの改善が見られた。

■柿 粗皮削りまっ最中！

柿のせん定作業もほぼ終了し、各産地ではバークストリッパー（高圧洗浄機）を利用した粗皮削り作業が行われ、越冬害虫の密度低減を図っている。

カイガラムシ対策のジノテフラン剤（塗布処理用）の助成を各振興会（北方、羽島を除く）が実施し、カイガラムシの被害軽減に努めている。

生育は今のところ冬季が寒かった影響で早生品種の芽が割れ始めたところで、ほぼ平年並みの状況。ただし、今後の気温によって大きく左右される。



粗皮削り作業

■樹幹塗布研修会

3月28日、糸貫、瑞穂の振興会においてカイガラムシ対策の樹幹塗布研修会を開催した。昨年の実施結果を踏まえ、効果の高い塗布時期や粗皮削りの程度等の方法について徹底指導した。

■花き 病害虫診断による普及活動が安定生産に寄与

管内の鉢花を中心とした花きは販売額県内トップを誇る地域で、安定生産・安定した品質は信頼される産地の条件の一つである。そこで農業普及課では、安定生産を障壁となる病害虫、生理障害の原因究明を現地巡回等を通して実施し、花き農家の支援を行っている。その診断結果と対策等は、部会研修会等を通して多くの生産者に情報提供し、予防対策の一助としている。平成22年度の1年間の対応状況は以下のとおりである。

○原因が判明したもの：20事例

○原因が未判明なもの：10事例

担い手の育成・確保

■集落営農組織・営農組合

■各務原第一機械化営農組合法人化検討

現在、各務第一機械化営農組合（8名）の法人化についての検討が進められており、今年中に設立の方向に向かうこととなった。各構成員10a以上農地を提供し、約10haの規模で取り組む予定としている。

■指導農業士 総会で経営改善研修会開催

岐阜地区指導農業士連絡協議会の総会及び研修会・交流会が3月17日に開催された。

総会では、東日本大震災に対する義援金の支援について決議され、研修会では、三河のエジソンと呼ばれる愛知県農業経営士から「開発型農業で21世紀の農業をリードしたい」と題した講演が行われ、自ら農機の開発を行い経費を削減した経営の内容は、今後の経営改善手法として参考となる研修会であった。



経営研修会の様子

地域の動き等

■岐阜市 園芸振興会役員研修会開催される

3月8日に岐阜市園芸振興会役員研修会が開催され、役員および関係者約80人が参加し、「新規就農支援と農業経営継承事業」「全農ぎふの園芸販売の取り組み」について聴講した。

■JAぎふ 羽島市に農産物直売所がオープン

JAぎふの支店統廃合で3月14日に羽島中央支店がオープンし、併設されたグリーンセンターで農産物の直売が始まった。

JAぎふでは、オープン前から園芸塾を開催し、出荷者確保に奔走し、農業普及課も技術面で支援を行ってきた。初日には、アスパラガスを始めとした新鮮農産物が出荷され、お客の反応も上々であった。



オープン初日の直売所